

開講期	2026年度後期			単位数	2.0単位
科目[授業]名	1026 「子ども学」から見る教育・子ども・文化			開講形態（隔週 偶数＝隔週2コマ）	週間授業
種別	なし			定員	
履修可能学年	全学年履修可	重複履修	×	全学開講	○
曜日時限	金曜1限				
教室	C104教室				
代表教員	山口 理沙				
担当教員	山口 理沙				
テーマと到達目標	子ども学（Child/ Childhood Studies）とは、子どもにまつわる諸問題を扱う学際的なアプローチである。子ども学を通して教育、子ども、文化を各論から考える。つまりそれは、「子ども」という存在を中心に置き世界を考えることを目標とする。				
概要	子どもとは誰か、人生のある段階での子ども期をどのような時期と考えるのか、その定義や扱い方を歴史的背景、国や地域、文化による相違から考察していく。過去、現在、未来の子どもの置かれる世界を考えていくことから、子どもの世界の深層を探る。				
対面科目/オンライン科目	対面科目				
授業計画				担当教員（複数の教員が担当する場合のみ記載）	授業方式
第1回	オリエンテーション：授業概要と評価基準、授業において求められること				対面授業
第2回	子どもとはだれか				対面授業
第3回	子どもが知覚する世界				対面授業
第4回	子どもと教育				対面授業
第5回	子どもとファッション				対面授業
第6回	子どもと児童文化①導入編				対面授業
第7回	子どもと児童文化②計画編				対面授業
第8回	子どもと児童文化③実践編				対面授業
第9回	子どもと児童文化④評価編				対面授業
第10回	子どもと環境				対面授業
第11回	子どもと表現				対面授業
第12回	子どもと健康				対面授業
第13回	子どもと人間関係				対面授業
第14回	子どもと言葉				対面授業
第15回	まとめ：「子ども学」から見る教育・子ども・文化				対面授業
成績評価の基準	毎授業の課題及び授業への取り組み状況60%、学期末レポート40%				
履修にあたっての留意事項	特に定めず。適宜各論に対応したものを提示する。				
オンライン授業方式(同時双方向型・オンデマンド型)の詳細					
【種別】人数制限（抽選）授業の優先条件					

◆教科書・教材

教科書以外に必要な教材費用	児童文化財（絵本やPOP）の製作を予定しているため、色をつける文具が必要となる。		
教科書	指定せず。適宜資料（史料）を提示する。	教科書(ISBN)	
参考文献	『子ども学への招待 子どもをめぐる22のキーワード』近藤俊明ほか 編集 ミネルヴァ書房 『未来をひらく子ども学 子どもを取り巻く研究・環境・社会』坂越正樹 監修 福村出版	参考文献(ISBN)	978-4623078998 978-4571102035

◆合理的配慮

本学における修学支援基本方針について	本学における修学支援基本方針は以下URLを確認してください https://www.wako.ac.jp/campuslife/barrier-free.html 合理的配慮を希望する場合は基本方針およびシラバスを熟読の上で申請すること
--------------------	--